

情報活用能力の段階表【那覇市版】 令和5年度版

那覇市立教育研究所

要素	観点	小学校			中学校
		低学年	中学年	高学年	
基本的な操作等	知識・技能	□PCを起動・終了やファイルの保存などの基本的な操作をすることができる。	□電子ファイルの検索をできる。	□電子ファイルのフォルダ管理をすることができる。	□目的に応じて電子ファイルのフォルダ管理・操作をすることができる。
		□写真や動画の撮影をすることができる。	□文書作成等の基本的なアプリケーションを操作することができる。	□目的に応じて適切にアプリケーションを選択し、操作することができる。	□目的に応じて効果的にアプリケーションを選択し、操作することができる。
		□身近な事象から情報を集めて、相手や目的に応じて発信することができる。	□学校外の事象や図書資料・インターネットなどから情報を複数集めて吟味し、相手や目的に応じて発信することができる。	□学校外の事象や図書資料・インターネットなどから情報を複数集めて吟味し、相手や目的に応じて効果的に発信することができる。	□学校外の事象や図書資料・インターネットなどから情報を複数集めて吟味し、相手や目的に応じて、グラフや図・表を用いて効果的に発信することができる。
		□キーボードで文字を入力ができる。 ※1 (1分間 10文字程度)	□キーボードで正確に文字を入力ができる。 (1分間 30文字程度)	□キーボードで十分な速さで正確に文字を入力ができる。 (1分間 40文字程度)	
小学生 平均5.9文字、中学生 平均17.4文字(文部科学省「情報活用能力調査結果」2015)					
問題解決・探究における情報活用	知識・技能	□身近なところから情報を収集して分類・整理し、意見をまとめることができる。	□調査や資料等から情報を収集し、情報同士のつながりを見つけたり、表やグラフを用いて整理することができる。	□問題を発見し、その解決のために調査や資料等から情報を収集し、情報同士のつながりを見つけたり、表やグラフを用いて整理することができる。	□問題を発見し、その解決のために、目的に応じた情報メディアを選択し、調査や実験等を組合せながら情報を収集し、目的や状況に合わせて統計的に整理することができる。
	思考力・判断力・表現力等	□相手を意識して、わかりやすく表現することができる。	□相手や目的に合わせて、適切に表現することができる。	□問題の解決策を明らかにして表現・発信・創造することができる。	□情報の傾向や変化を捉えて、問題の解決策を明らかにして表現・発信・創造することができる。
	学びに向かう力・人間性等	□学習内容と方法を振り返り、できるようになったことに気づくことができる。	□自らの情報活用を振り返り、どのように改善していけば良いのかを考えることができる。	□自らの情報活用を振り返り、改善点を分析し考えることができる。	□情報及び情報技術の活用を振り返り、改善点を分析し考えることができる。
プログラミング	知識・技能	□問題の解決や表現活動の際には手順があることを理解することができる。	□問題解決や表現活動の際に、コンピュータとプログラムの関係を体験的に理解し、順次、分岐、反復を含んだプログラムの作成することができる。	□問題解決や表現活動の際に、コンピュータとプログラムの関係を体験的に理解し、他者と協働しながら順次、分岐、反復を含んだプログラムの作成することができる。	□問題解決や表現活動の際、論理的な手続きやデータを様々な工夫できることを体験的に理解することができる。
	思考力・判断力・表現力等		□プログラミングの手順や組合せを振り返り、改善点について考えることができる。	□プログラミングの活用を効率化の視点から評価・改善することができる。	□プログラミングの活用を多様な視点から評価・改善することができる。
	学びに向かう力・人間性等		□プログラミングによる学びを生活に生かそうとすることができる。	□プログラミングによる学びをよりよい生活や社会づくりに生かそうとすることができる。	□情報技術の価値を社会や将来に関連付けて考えることができる。
情報セキュリティ ※2	知識・技能	□自分や他の人達の情報を大切にし、ルールを守って安全に情報手段を使うことを理解することができる。	□情報手段(SNS等)の利便性と危険性を理解し、自分や他の人への影響を考慮して適切に使用することができる。	□情報手段(SNS等)の利便性と危険性を理解し、情報に関する自他の権利があることを踏まえて、適切に使用することができる。	□情報手段(SNS等)の利便性と危険性を理解し、情報に関する個人の権利と重要性を踏まえて、適切に使用することができる。
	思考力・判断力・表現力等	□コンピュータやインターネットの基本的なルールやマナーを理解することができる。	□生活の中での必要となる情報セキュリティを理解することができる。	□生活の中で必要となる情報セキュリティを理解し、適切に管理・利用することができる。	□情報セキュリティの重要性を理解し、その確保のための対策・対応を、適切に実施することができる。
			□情報ネットワークを協力して使おうとすることができる。	□情報社会での情報技術の働きや関わりを理解し、よりよい生活や社会づくりに生かそうとすることができる。	□情報や情報技術を多様な観点から考えることによって、よりよい生活や持続可能な社会の構築に生かそうとすることができる。

参考:「IE-Schoolにおける指導計画」、「熊本市版 情報活用能力の段階表」、「仙台市版情報活用能力おすすめカリキュラム」

※1 「キーボードで入力できる目安」については、自分の考えを正しくキーボードで入力できることを指す。

※2 情報モラルに関しては、デジタルシチズンシップ教育の考え方を取り入れた指導を行う。